

女王様の

お気遣いに触れて

平石政行
(三重県鳥羽市)

エリザベス女王の訃報をラジオで耳にしたのは九月九日の早朝でした。異国の女王様ながら親しみを覚えるのは、直に一度お見掛けした記憶があるからでしょうか。

時は四十七年も前に遡ります。当時私は鳥羽市内に在るミキモト真珠島に勤めていました。

この小さな島に英国の女王様がお見えになるといので社内は大騒ぎです。社員百名余りの中で男子は僅か二十数名、各自綿密な役割分担と行動計画を基に五月十一日を迎えました。

私はバックingham宮殿直属のマスコミ関係者十数名と小型船に乗って海上待機、陸上から海女作業をご覧になれる女王様を、海を隔てた船の上から取材するという趣向です。

「どんな質問にも答えられるようにしておけよ」と上司に言われて俄か勉強したことを記憶しています。

四十名の海女さんが一斉に海に飛び込みました。海一面、白い花が咲き揃ったような美しさです。

海女さんの一挙一動に、真剣に見入っておられた女王様のお姿が、今も脳裏に鮮明です。

当初の予定より少し早めに終了のサインが出ました。

「海女さんたちが寒いから・・・」という女王様のご配慮であったことを後から知り、思いやり深いお人柄に触れる思いがしました。

後にも先にも例を見ない賓客のおもてなしも無事終えました。

携帯もスマホもない時代に、人海戦術で互いに連絡を取り合って、よくやったなと思います。

二十八年近く勤めさせて頂いた私にとっても、生涯忘れることのできない大切な思い出です。

2022 (令和4) -9-11

決して忘れない
女王とのふれあい



ミキモト真珠島で、海女による養殖の表演を見学するエリザベス女王(右)とフィリップ殿下(左) 1975年5月、三重県鳥羽市

英国のエリザベス女王は、初来日した1975(昭和50)年5月、三重県伊勢市の伊勢神宮や鳥羽市のミキモト真珠島などを訪れていた。突然の訃報に、かつて女王と触れ合った三重県内の関係者からも悼む声が沸いた。▼1面参照
今から47年前の5月11日、女王は近鉄の特急車両12200系(昨年引退)の貴賓列車に乗って、近鉄五十鈴川駅に到着。伊勢神宮内宮に参拝した。その後に訪れたのが「真珠島」だった。
「真珠王」として知られる御木本幸吉が開いた観光施設で、女王はネックレスの加工作業などを見学した。真珠博物館の松月清郎館長(70)は、女王を間近で見たと語り、その年の4月に入社したばかりで、裏方として準備に携わった。社員一同で並んで迎えた。
「当時は「こんな偉い人がどうしてこんな人」かと思いましたが、後に先方の希望で訪問された」と聞かされた。
女王について「今、振り返ると、ミキモトにとってこれまでの歴史の中で最も大きな出来事となった。本当に明かりが消えたような寂しい気持ちです」としのんだ。

「威厳と気品伝わった」47年前伊勢訪問

エリザベス女王は夫のフィリップ殿下(昨年四月死去)とともに一九七五年五月に来日した際、三重県伊勢市の伊勢神宮や鳥羽市のミキモト真珠島を訪れた。

当時の本紙報道によると、伊勢市の近鉄五十鈴川駅に着いた夫妻を、市民ら約八千五百人が日英の小旗を振って歓迎した。女王は伊勢神宮で、神宮の起源などに関心を寄せて職員に質問を投げかけたほか、手袋を外し神宮馬にニンジンを与えてみるなどした。

神宮の神職だった向市宇治浦田の篠原龍さん(85)は広報担当として、内宮の正殿前の階段下で正殿に向か

って歩く女王の姿を撮影。緊張した面持ちだったことが印象深かったとして、女たちの素着のシヨイヤ、宗教の違いはあるが、信仰の敬意は共通していると感じた。安らかに眠られることを願っている」と哀寒くなる」と海女への同情

を口にし、施設の運営会社からは真珠やネックレスが贈られたという。

同施設の真珠博物館の松月清郎館長(80)は夫妻の訪問を出迎えた一人。「遠目から見守ったんだけど、しんとした雰囲気、たまたまいから威厳と気品が伝わった。女王の訪問を受けたことも、八五年に博物館がスタートした契機の一つ。亡くなられて光が消えた思い」と悼んだ。

女王一行は鳥羽国際ホテルに宿泊し、ティナーにキジの燻製やイセエビのワイン蒸しなどを味わった。館内には今でも、当時の写真が飾られている。



真珠の製作現場を視察したエリザベス女王(右)とフィリップ殿下(左) 1975年5月11日、三重県鳥羽市のミキモト真珠島で